泉家住宅　おもて　とぉごら　くら

【所　在　地】奄美市笠利町宇宿字久保 158
【種　　別】国指定有形文化財（建造物）
【指定年月日】平成６年７月 12 日

泉家住宅全体

おもて，とぉごら（西側から）

くら（北側から）

泉家住宅は，明治時代初期に建設された古い別棟型民家（分棟型民家ともいわれる）であり，座敷棟の「おもて」と台所棟の「とぉごら」からなる。

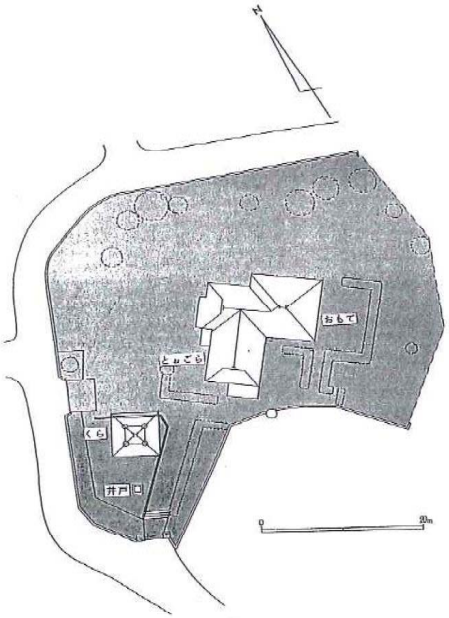
「おもて」は寄棟造・トタン葺で，トコをもつ八畳の座敷とそれを囲む３つの小さな部屋からなる。

「とぉごら」は入母屋造・トタン葺で，台所の機能をはたす建物で２部屋からなる。

「とぉごら」の南西には４本の円柱をもつ高倉（高床の倉）が建ち，その南には井戸がある。

屋敷の周囲には土塁がめぐり，その上に防風林が茂っている。

泉家住宅は，奄美地方で建設年代が 19 世紀に遡る数少ない民家の一つであり，「おもて」と「とぉごら」の両棟が高倉とともにそろって残っている貴重なものである。



泉家住宅の配置図